

収納業務一元化の検証概要

I. 収納業務一元化の概要

1. 一元化開始

平成20年4月から学納金収納業務一元化を開始

2. 概要

- ①学生諸納付金の収納については、学納金収納システムを利用し、「授業料」、「寄宿料」及び「預り金*」（*主に学校が主体となって徴収しているその他の資金、及び授業料等とともに収納している私費相当分）（以下、「学納金」という。）の収納一元化を図った。
- ②学納金の収納業務については、収納代行会社を利用し原則口座振替により収納を行った。
- ③検定料、入学料、その他自己収入については、振込により収納し入金先は高専別の本部口座とした。

II. 平成20年度本部管理課における学納金収納実績

1. 口座振替収納実績
授業料 113億9,444万円
宿舎料 1億3,676万円
預り金 33億9,189万円
2. 口座振替利用率 約99%

III. 検証結果

- ①業務等削減・各高専の学納金を本部において一元的に収納することにより、各高専の収納業務が全体で約20%、機構本部を含む法人全体で約11%の業務削減となっており、また、各高専の所要担当者数は全体で約5人の減、本部担当者数2人の増、法人全体で約3人相当の減員にとどまっている。これは一元化初年度で学籍情報の登録等に時間を要したためであり、21年度は業務のルーチン化等により、業務量等の削減が見込まれる。
- ②経費等節減・初期導入等経費は学納金収納システムの改修等に約1千3百万円を要したが、収入資金管理の一元化による効率的な収入資金の管理により、利息収入約1千5百万円の増に繋がった。
- ③今後の課題・学納金収納システムのサーバ増設等による業務の効率化、機構本部と各高専との業務分担の明確化（重複業務の徹底した見直しなど）の推進及び職員の意識改革等による連携体制の更なる強化が必要である。
- ④総合的所見・20年度は初年度のため大幅な業務量の削減とはならなかったが、各高専においては督促業務などの軽減により、効率化・合理化等が推進され、業務改善・経費節減に貢献している。21年度以降においては、業務のルーチン化や業務に対する経験の積み重ねにより、業務量の更なる削減が期待できる。